

ホームページとブログ

ホームページとは

ホームページ (Homepage) という用語はおなじみかと思いますが、実はその使われ方は様々で、実に曖昧です。ウィキペディアではホームページの用法を以下のように分類しています。

1. Web ブラウザの用語で、起動時に表示されるように設定された Web ページ (=起動ページ)
2. Web ブラウザの用語で、ホームボタンを押した際に表示されるように設定された Web ページ
3. インターネットの用語で、Web サイトの表紙にあたるメインページのこと (=トップページ)
4. Web ページの意。Web ページのアドレスをホームページアドレスということもある
5. Web サイトの意。企業・団体が運営する公式 Web サイトを公式ホームページということもある。ホームページ・ビルダーなど、ソフトウェア名としても利用される
6. Web サイトの中でも個人が運営するサイトのみを指す場合。ブログを含まず「ホームページやブログ」という使い方もする

Web ブラウザの起動ページ (上記の 1) が本来の意味でしたが、日本ではインターネットを通じてブラウザで表示する情報画面全般 (上記の 4) や、企業や個人が運営する Web サイト (上記の 5、6) の意味で使われることが多いようです。

ここでは、ブログと区別して上記の 6 の意味で解説します。つまり「ホームページの作り方」とか「ホームページ構築サービス」とかで使われるホームページというものです。

ホームページの進化

インターネットは、研究者が情報を簡単に閲覧できる方法として、ハイパーテキスト (HyperText) と呼ばれる文書同士を繋げる仕組み (具体的には、文書中に別の文書の URL への参照を埋め込むハイパーリンク (HyperLink) と呼ばれる手法) が開発されたことに端を発して、発展してきました。

HTML (HyperText Markup Language) と呼ばれるハイパーテキストを使った文書の記述方法は比較的単純で分かりやすいものでした。HTML で文書を作成するためのツール(ホームページ作成ソフト)と、HTML で作成された文書を閲覧するためのツール(Web ブラウザ)も開発されました。

初期の HTML 文書はテキストのみでしたが、やがて色付きのテキスト、グラフや写真などの画像なども扱えるようになり、さらには音声や動画などの組み込みもできるようになりました。

1990 年代半ば頃より、Word などの Office 文書に関して、文書の構造と体裁(見栄え)を分離させるという理念からスタイルシートという手法が生まれ、HTML 文書についても、構造(HTML で記述)と体裁(CSS: Cascading Style Sheets と呼ばれる言語で記述)で記述方法を分けるようになりました。

CSS は、HTML と組み合わせて使用する言語で、HTML が Web ページ内の各要素の意味や情報構造を定義するのに対して、CSS ではそれらをどのように装飾するかを指定します。例えば、Web ページがスクリーンに表示される際の色・サイズ・レイアウトなどの表示スタイルや、プリンタなどの機器で印刷・出力される際の出カスタイル、音声で読み上げられる際の再生スタイルなど、Web ページをどのようなスタイルで表示・出力・再生するかについては、CSS で記述するのです。

CSS の登場でホームページの作成は複雑さが増し、専門家に頼るか、CSS に対応しているホームページ作成ソフト(「ホームページ・ビルダー」など)を導入しなければならなくなりました。

その一方で、教育機関や自治体など、組織内の多数の人が更新作業を行うような大きな Web サイトでは、誰でも簡単にホームページに記事を投稿できる仕組みが求められ、CMS (Contents Management Systems) と呼ばれるソフトウェアが開発されました。

CMS でホームページが構築されていれば、HTML や CSS のような Web サイトの制作に必要な専門知識を必要とせず、テキストや画像などの情報を入力するだけで、記事の投稿ができます。

ただし、CMS をインストールし、デザインテンプレートを使用して Web サイトを構築するまでは、技術的な知識が必要です。そのこともあって、Web サイト構築を専門とする会社の多くが CMS での Web サイト構築を手掛けています。

現在では、自前で運営されている大規模な Web サイトは、ほぼすべていずれかの CMS で構築されています。

なお、後述するブログもこの CMS を背景に生まれたサービスです。

さらに、小規模な企業や個人のホームページ向けには、ホームページ作成ソフトが不要で、ブラウザだけでホームページを構築・管理できるサービスが始まりました。Web サイトに必要なハードウェア(サーバなど)とソフトウェア(一種の CMS)ごと、有償で提供(お試しなどのための無償提供のプランもあります)しています。もちろん HTML や CSS などの専門知識は不要というものです。

現在では、新たに構築される小規模な Web サイトはいずれかのホームページ構築サービスを利用していると言って過言ではないでしょう。

ちなみに、この「IT リテラシーを高めよう！」の Web サイトもこの種のサービスを利用したものです。

主なホームページ作成ソフト、CMS、ホームページ構築サービス

以下は、民間企業向け、個人向けのホームページ作成ソフト、CMS、構築サービスの主なものです。

自治体向け、教育機関向けには、メーカー、ソフトウェアサービス会社がそれぞれ様々な製品を販売しています。

ホームページ・ビルダー

日本 IBM が開発し 1996 年に発売が開始され、現在はジャストシステムが開発、販売、サポートを行っている初級者向けのホームページ作成パッケージソフトです。2000 年代を通じてこの種のパッケージソフトの売上第 1 位を占めていました。CSS にも対応しています。

2012 年に発売された「ホームページ・ビルダー17」からは、後述の WordPress にも対応し、レンタルサーバ上に WordPress をインストール、Web サイトの構築、更新ができるようになりました。

最新バージョンは 2016 年に発売開始された「ホームページ・ビルダー21」です。

WordPress(略称:WP)

CMS の中でもっとも有名なのが WordPress です。いわゆるオープンソースのソフトウェアで、基本的には誰でも無料で使えます。

2003 年に登場し、頻繁に更新されています。最新バージョンは 2019 年 11 月の 5.3 です。

現在、世界の Web サイトの約 3 分の 1 は WordPress で作成されているとまで言われていて、個人のブログから企業のホームページまで幅広い用途で利用されています。

書籍も多く出版されていて、HTML と PHP の知識があれば導入も簡単で、カスタマイズもしやすいです。

WordPress の大きな特徴としては、無料で誰でも利用できるほか、WordPress に関する情報の多さ、サードパーティからのプラグイン (WordPress に追加機能を簡単に付与することができるオプションのソフトウェア) の豊富さがあげられます。

Movable Type (略称: MT)

シックス・アパートが開発し 2001 年に登場した、ブログ形式でホームページを作成できる CMS です。難しい操作方法を覚える必要はほとんどなく、文字の入力と写真の貼り付けだけで Web ページを作成・更新できます。ブログの普及は Movable Type のおかげと言って過言ではありません。

WordPress が誕生しブログに留まらない CMS に発展すると、Movable Type もオープンソース版を発表して、同様に発展するというふうに競っていましたが、今では WordPress の方が圧倒的なシェアを誇ります。オープンソース版の提供も中止されています。

NOREN

NOREN はアシストが開発し、2002 年に登場した国内産の CMS です。現在は子会社の「のれん」が提供サービスを行っています。

シンプルかつ使いやすいことに加え、静的 CMS (閲覧ページを事前に生成) と動的 CMS (ページにアクセスするたびにページを動的に生成) の要素を組み合わせたことで、両者の「いいとこ取り」をしていることが特徴です。静的 CMS のメリットであるセキュリティや運用面の安定性を維持しつつ、動的 CMS で Web サイトの表現の幅を広げることに成功しているといえましょう。

但し、最小の提供価格が 1,000 万円以上となっているので、小規模企業には向きません。

Jimdo (ジンドゥ)

Jiimdo は 2007 年にドイツで生まれ、現在世界では 2,500 万サイト超がこのサービスを利用しています。

日本では、KDDI ウェブコミュニケーションズが 2009 年に提供を開始しました。現在、170 万サイト超と、国内トップの利用者数を誇っています。

サーバや HTML などの専門的がなくてもホームページが作れるクラウド型のホームページ構築サービスのひとつです。デザインテンプレートを選び、プレビュー画面(公開時のレイアウト)から、マウスでクリックとドラッグ&ドロップを行うだけで、直感的にホームページが作成できます。自社ホームページの雰囲気にあったデザインを探し、写真と文章を入力するだけで良いため、Web 制作に関するスキルや知識がない人でも利用できます。

無料プランが提供されているため、予算不要でホームページを作ることができ、NPO やサークル団体などのホームページ構築に重宝されています。

ホームページを持たない中小企業への展開を推進するために、Google が「みんなのビジネス(みんなのビジネスオンライン)」という名称で、2011 年から 3 年間有料プランの 1 年間の無料サービスを推進しました。中小企業(特に小規模企業)には最適なホームページ構築サービスと言えるでしょう。残念ながらこのサービスは既に終了し、KDDI グループが「はじめて Web」という名称で同種のサービス提供を続けていましたが、KDDI も 2020 年 10 月にこのサービスを終了してしまいました。

Wix(ウィックス)

Wix は 2008 年にイスラエルで生まれ、現在世界で 1 億 6,000 万サイト超と、世界で最も利用されているクラウド型のホームページ構築サービスです。

2013 年から日本語版が提供開始され、伸び盛りのサービスです。明確な数字は明らかにされていませんが、NTT タウンページのプレスリリースによれば、現在日本のユーザー数は数百万とのことでした。

簡単さに加え、数百種類ある洗練された品質の高いデザインテンプレートが人気です。ボタンや文字、画像などをドラッグ&ドロップでホームページ上に配置していくことができ、Jimdo と比較してより小回りの利く画面を制作できます。Wix はサポートが充実しているのも特徴です。ホームページ作成講座や作成事例も見ることができ、ヘルプセンターでは使い方解説や困り事対処法がまとめられています。

2019 年 9 月、NTT タウンページが Wix と戦略的業務提携を結び、中堅・中小企業のデジタル・マーケティングを支援するサービスを開始しました。Web を使った集客・成約を目指す企業にとっては魅力的なサービスといえるでしょう。

ブログとは

ブログ(Blog)は、Web にログする(Weblog)の略から生まれた言葉で、執筆者(ブロガー)の個人的な体験や日記、ニュースや時事などの話題をインターネット上に記すWeb サイトのことを言います。

執筆された個別記事は、執筆(投稿)日時とタイトルおよびカテゴリを付けて記録され、最新の記事から順に遡って閲覧できるようになっているほか、カテゴリ別にも閲覧できるようになっています。

ブログは 2000 年代初頭に誕生し、ブログ向けのソフトウェア(Movable Type や WordPress などが有名)や、ブログサービスサイトを利用することで、HTML を知らなくても、自身のブログとしてWeb ブラウザから手軽に情報の発信・更新ができるから、爆発的に利用が広まりました。

ブログサービスサイトを利用すれば、パソコン以外に携帯電話などモバイル通信端末のインターネット機能を用いて、外出先などからの手軽に更新できるのも重宝されている要因です。

ブログは、個人の日記的なものから、手軽な意見表明の場として、時事問題などについて論説するもの、企業やクリエイター集団が、対外的な活動日誌などという位置づけで、自社公式サイト内で公開しているものまであり、様々な用途で使われています。

ブログや SNS での発言や投稿した写真が世間に対し影響を及ぼすブロガー達は、インフルエンサーと呼ばれています。

日本の主なブログサービスサイト

- [アメーバブログ](#)(サイバーエージェント)
- [ウェブリブログ](#)(NEC ビッグローブ)
- [エキサイトブログ](#)(エキサイト)
- [ココログ](#)(ニフティ)
- [はてなブログ](#)(はてな)
- [楽天ブログ](#)(楽天)
- [JUGEM ブログ](#)(GMO ペパポ)
- [ライブドアブログ](#)(LINE)
- [Seesaa ブログ](#)(シーサー)
- [SS ブログ](#)(旧 So-net ブログ)(ソニーネットワークコミュニケーションズ)

ホームページとブログ、および SNS の比較

	ホームページ	ブログ	SNS
情報のリアルタイム性	△	○	◎
情報の寿命	◎	◎	✕
検索エンジンとの相性	◎	◎	✕
情報の拡散度合い	✕	○	◎
滞在時間と熟読度合い	◎	○	△
情報発信の目的・役割	<ul style="list-style-type: none"> ● 会社・団体などの基本情報の開示 ● 恒常的に有効な情報の発信 ● 問い合わせの受付 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日記・活動日誌 ● 物・サービス、時事問題等に関する意見の表明 	<ul style="list-style-type: none"> ● 友達・知人への情報発信 ● 友達の友達などを通じた情報の拡散 ● 「いいね」などのリアルタイムな反応の取得